



アーチル発達障害基礎講座

「発達障害児者が地域で安心して生活するために、
支援者ができること」

仙台市北部発達相談支援センター

乳幼児支援係長 大橋 かほる

アーチルは何をしているところ？

～アーチルの3つの顔～

- **こどもから大人まで 発達障害のある**（心配な）方を対象とした相談支援を行っている
- **仙台市**が設置・運営する相談機関

① **児童相談所の一部業務**（18歳未満）

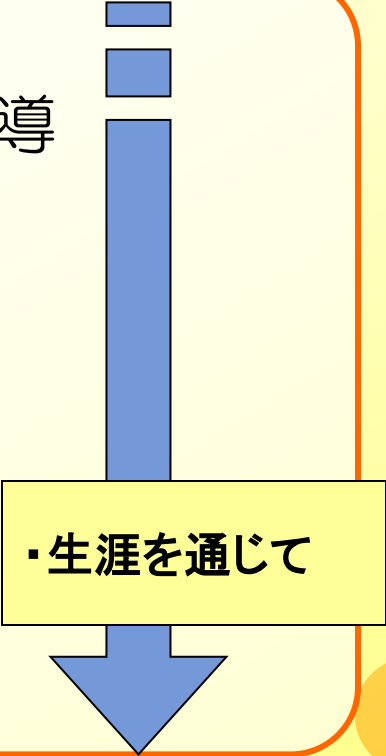
- ・ 障害児に関する相談・調査・判定・指導

② **知的障害者更生相談所**（18歳以上）

- ・ 知的障害者に関する専門的相談・指導
および関係機関の支援

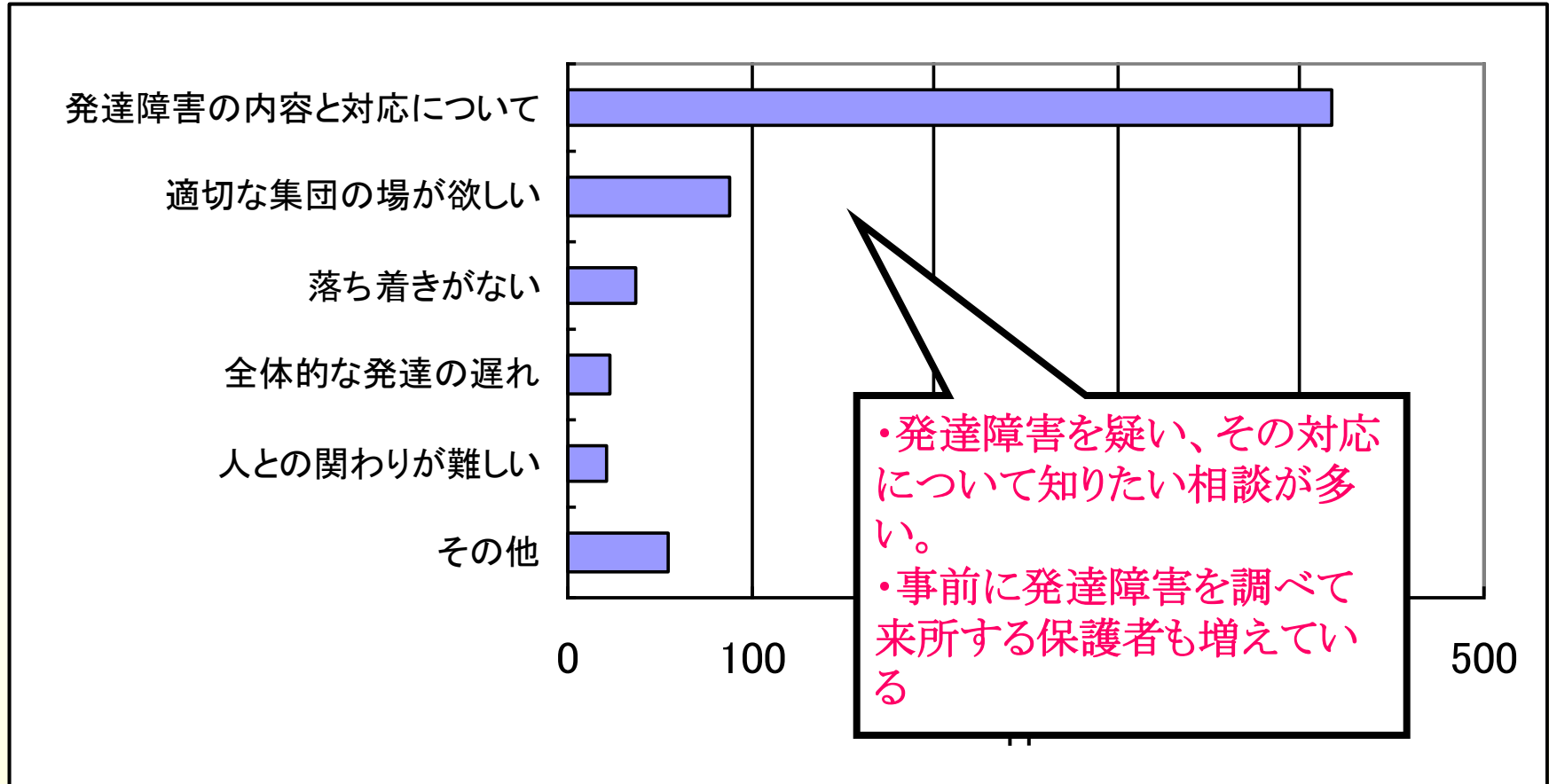
③ **発達障害者支援センター**（子供～大人）

- ・ 発達障害に対する専門相談支援



・生涯を通じて

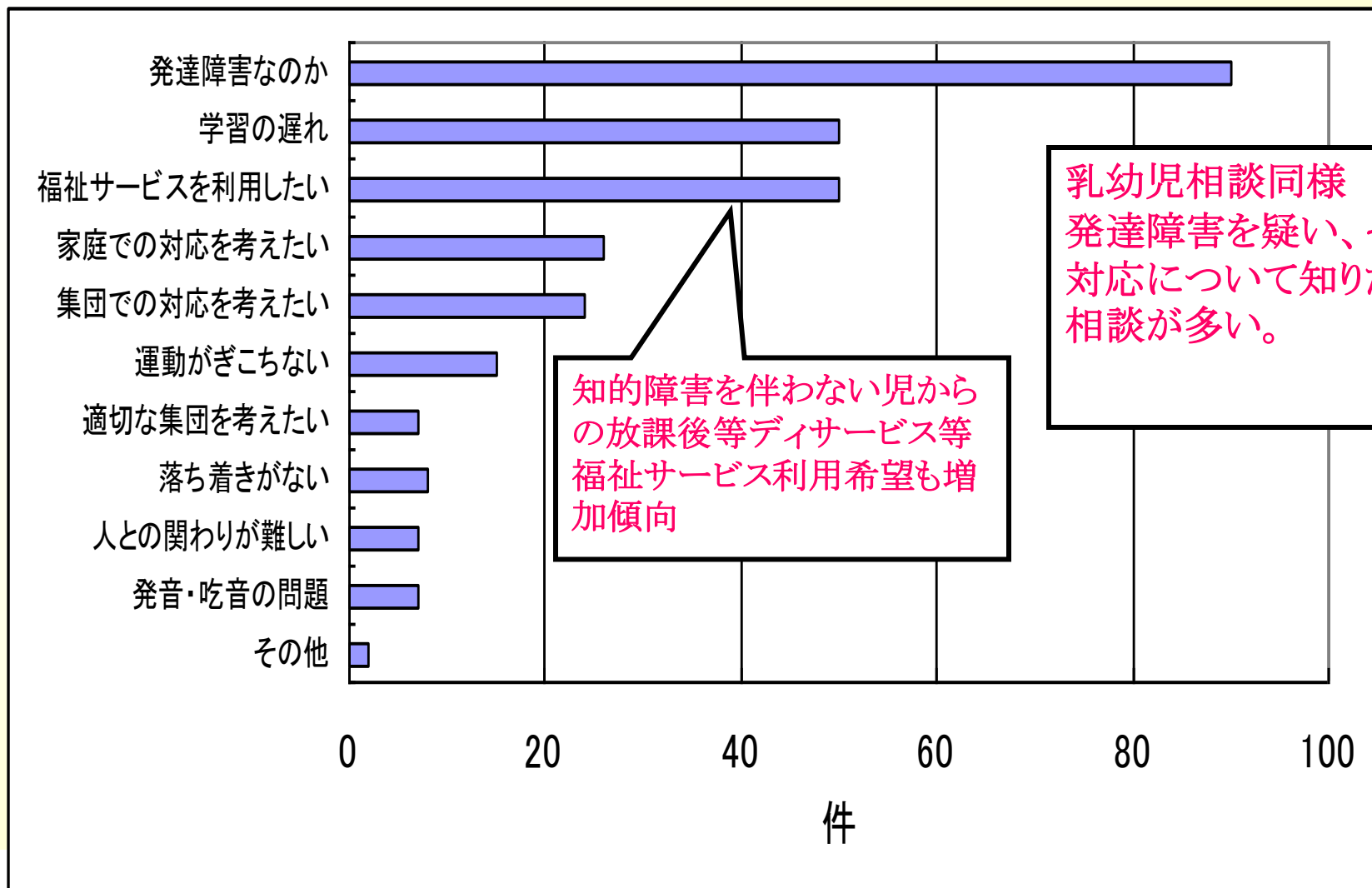
乳幼児新規相談者 主訴別内訳



相談から見える現状と課題 ①乳幼児期

- 発達障害に関する多種多様な情報が氾濫しており、保護者が不安になって来所される場合も少なくない
- すでに保育所・幼稚園に所属など地域に活動の場がある新規相談者数が増えている
- 養育上の課題を抱えた家庭の相談が増えている
- DVや虐待等、家族背景が複雑に絡んだ相談も増えている

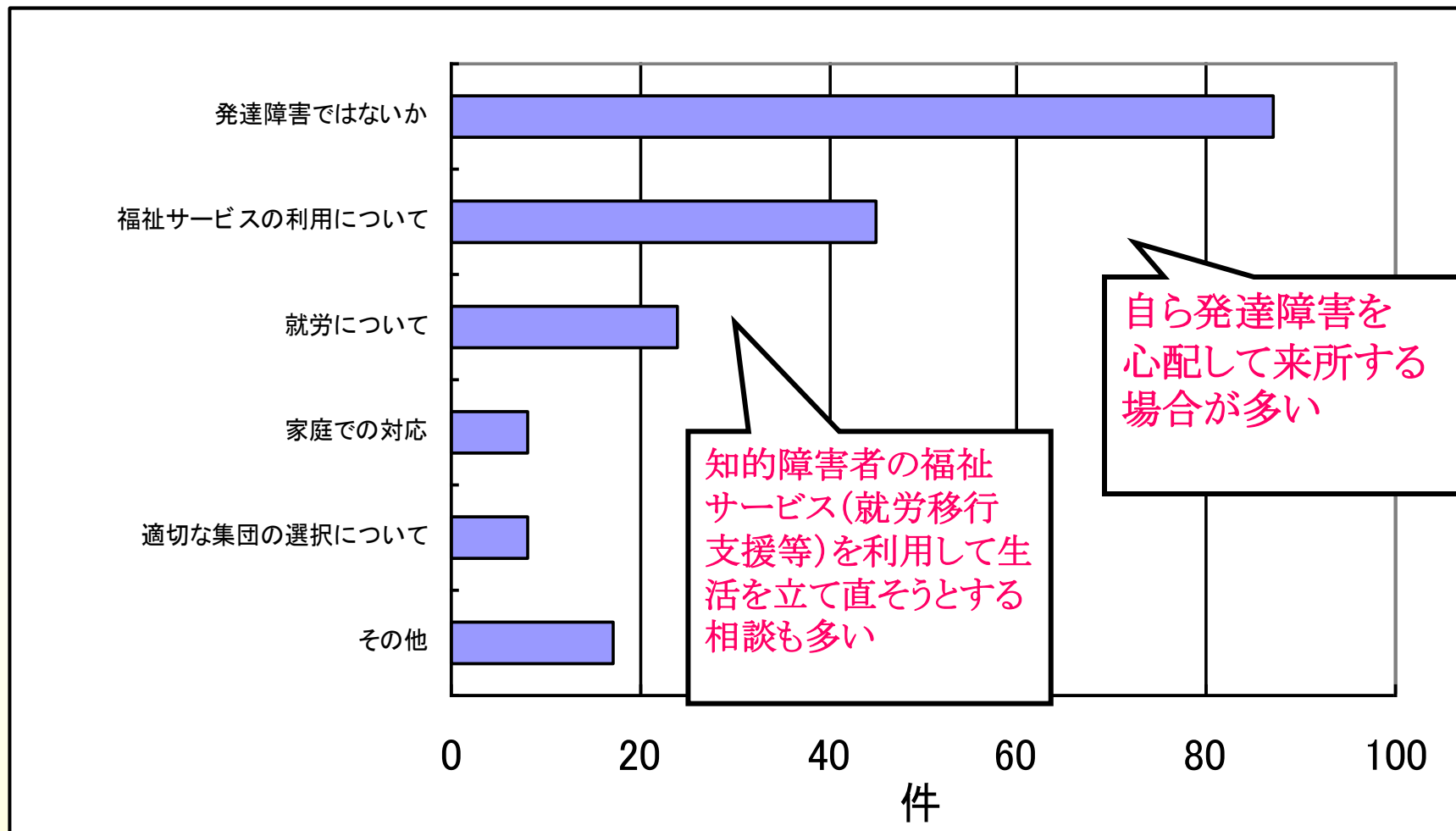
学齡児新規相談者 主訴別内訳



相談から見える現状と課題 ②学齢児期

- より「障害特性がわかりづらい」新規相談者が増えている
- 虐待や触法、不登校等問題がいくつも絡み合い、一機関や施設・団体だけでの対応では支援困難なケースも増加している
- 重度の知的障害を伴う児で自傷やパニック等行動障害を生じるケースもある
- 知的な遅れのない発達障害児の福祉サービス（放課後等デイ）利用希望者が増えている

成人新規相談者 主訴別内訳

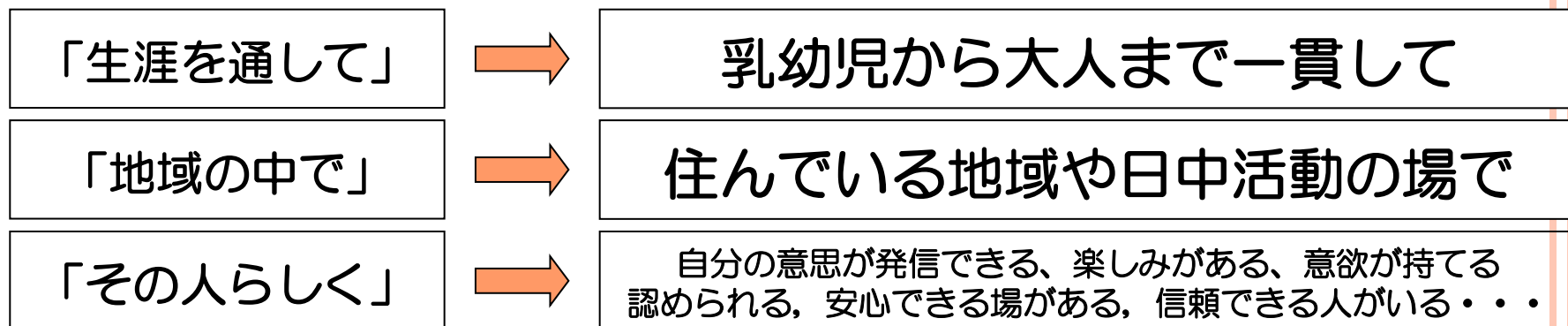


相談から見える現状と課題 ③成人期

- 就労継続困難等から自ら発達障害を疑って来所する新規相談者数が急増している
- 継続相談者数も増加、とりわけ20歳代の相談が急増している（地域で相談できる社会資源が不足している）
- 重症心身障害児者や行動障害等の住まいの場の確保や支援の担い手の不足
- 触法、長期引きこもり、家庭内暴力、精神科系疾患併発等 課題が複雑に絡み合った対応が困難な相談が増加

誰でも地域の中であたり前に暮らしたい。しかし…
障害があると「あたり前」が「あたり前」にできない現実がある。
本人や家族は、あきらめたり、孤立してパワーレスになることも多い。

そこで・・・



- その人の暮らしを押し量りながらニーズを探る相談支援
- 個別の相談から把握された全体の課題解決に向けたシステム作り



ケアマネジメントの考え方や ICF、障害・制度に関する知識等

ケアマネジメントとは…

【ケアマネジメントの考え方・共通の理念】

- 1 本人の願い（ニーズ）を中心に支援する。
- 2 チームで統合的な支援する。 （連携・協働）
- 3 エンパワメントを支援する。

（自分で意思を表明できる。

自ら問題解決に向かう力を持つ）

1. 本人の願い（ニーズ）を中心に支援するために ～冰山モデル～

**目に見える問題
(相談の主訴)**

- ・ことばが遅い
- ・指示を覚えられない
- ・お友達と遊ばない
- ・かんしゃくを起こす
- ・こだわりが強い など

**問題の背景
要因**

家庭環境

教育環境
職場環境

健康状態
(身体・精神)

発達特性
発達障害

相互に影響し
あっている

1. 本人の願い（ニーズ）を中心に支援するために

- 目に見える問題（相談の主訴）の背景を探る
 - ・ 発達障害児者支援の基本的考え方⇒第2部へ
- 「ニーズ」と「デマンド」

「ああしてほしい」「こうしてほしい」と口にしたり、表出した要望のこと。

将来も含めて本当に必要になってくるもの。客観的に判断された「必要」のこと。

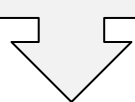
1. 本人の願い（ニーズ）を中心に支援するため

「本人の生きづらさ」「家族の育てにくさ」に着目した支援

本人の生きづらさ⇒発達支援

家族の育てにくさ⇒子育て支援

支援の開始



診断されてからではなく、早い段階から「生きづらさ」の改善を一緒に考えていく。

1. 本人の願い（ニーズ）を中心に支援するために

将来の「**自立**した生活」を見据えた、本人主体の支援

乳幼児期

学齢児期

成人期

フィードバック

保護者支援

本人支援

- 認められ、自信が持てる
- 自分の意思を発信できる
- 楽しみややりがいがある
 - 信頼できる人がいる
 - 安心できる場がある

「自立」とは・・・

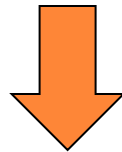
自分の望む生き方を、自分なりに決定し、

必要に応じて周りの手助けももらいながら、実現していくこと

1. 本人の願い（ニーズ）を中心に支援するため

予防的な視点からの支援

- 障害特性そのものは一生継続
 - 苦手なことの克服だけを無理に目指さない
 - 得意な領域を伸ばしていくこと
- ⇒ 本人の特性をよく知って関わり、環境調整する



最大の予防は「周囲の理解」

2 チームで統合的な支援をするために (連携・協働)

一貫した支援

支援者が代わっても本人の望む生き方が実現できることが大切。

本人・家族のニーズ

これまでの具体的な支援

次の支援者にきちんと引き継がれていくように

サポートファイルの活用

サポートファイルの活用

「アイル」は「私らしく生きたい(I will)！」を実現するためのファイル。平成26年度からは小・中学校でもサポートファイルの活用を行っている。

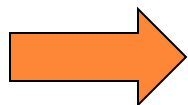
【アイル作成・活用の例】



2 チームで統合的な支援するために (連携・協働)

本人・支援者・市民の協働による支援

「誰もが本人らしく生きていくことができる社会の実現」のために・・・



『自分たちには何ができるか』

当事者意識をそれぞれが持ちながら
協働していく

連携を進めていくうえで(1)

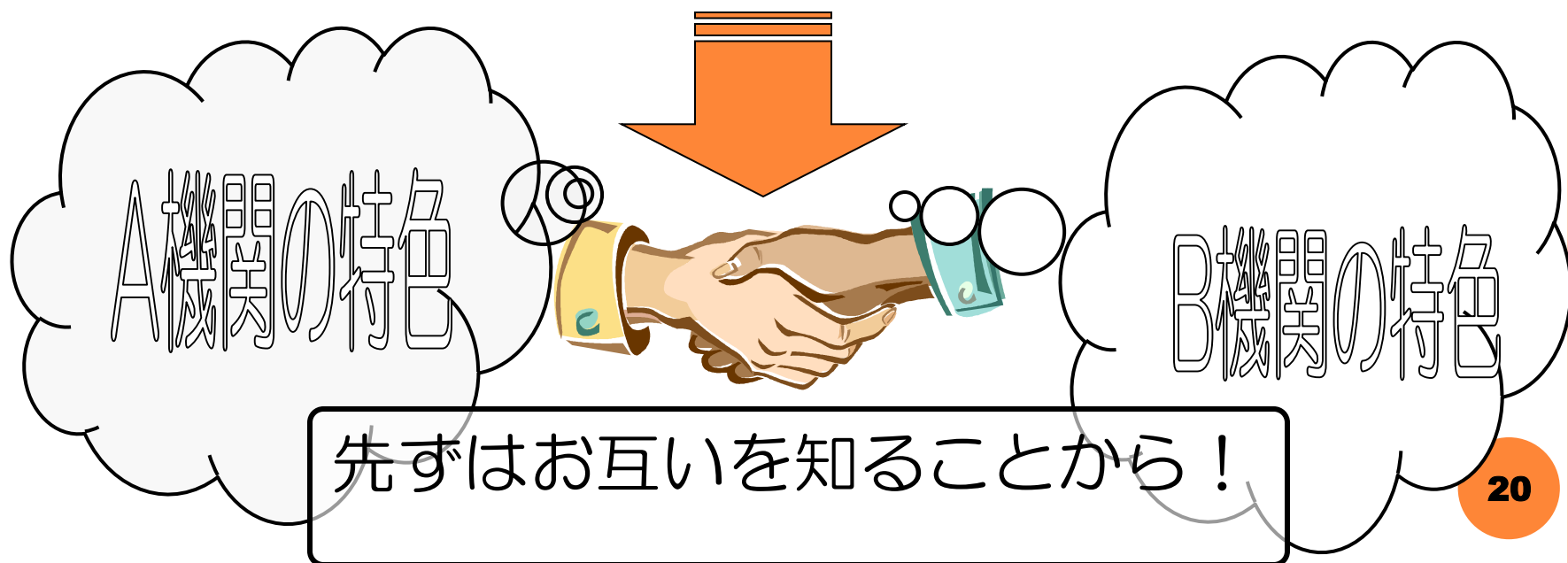
- 本人のニーズ？
- 家族の願いは？ 背景は？
- 関わっている機関はどんなところ？
- 通っている機関での状況や支援方針は？
- それら関係機関と一緒に考えたいのだが・・・



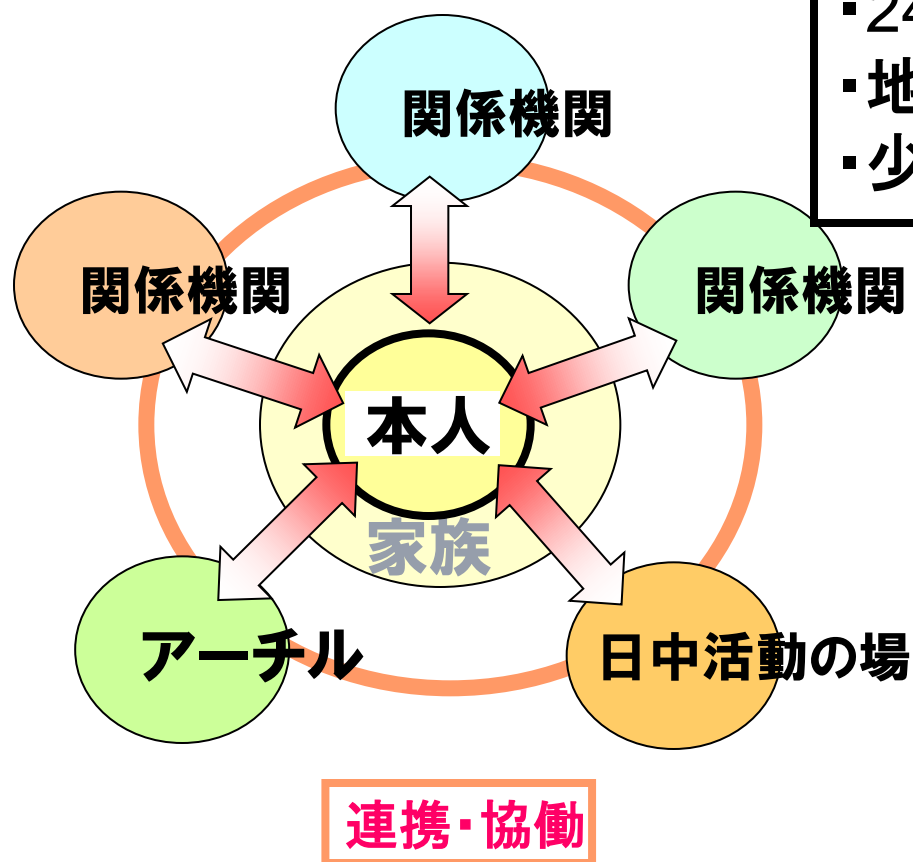
連携はしたいが、
どの機関とどう手を
組んだらよいのか？

連携を進めていくうえで(2)

- 連携先が、どんな取り組みを行っているのか
- どんな強みや特色があるのか
- 逆に苦手なところや課題はどんなところか
- 関わっている支援者は？



支援ネットワーク



☆関係機関と共有したいこと☆

- ・本人、保護者の視点・ニーズ
- ・24時間の生活
- ・地域の支援者と協力した生活支援
- ・少し先(将来)を見据えた支援

連携

本人や家族のニーズや支援の目標を共有し合いながら、お互いの立場を尊重し、役割を果たすことを期待しあう

3 エンパワメントを支援する。

【保護者のエンパワメント（乳幼児期の取り組み）】

「初期療育グループ」「家族教室」

意欲がわいてきた。元気をもらった。

将来のことが見えてきた。希望がわいてきた。

自分一人じゃなかった！仲間がいた！

自分達にもできることがあった！

自分達の経験を生かし、後輩の力になりたい！

新たなニーズ

- ・グループが終了しても自分達で何かしたい
- ・もっと仲間を増やしたい
- ・もっと身近にあって気軽に日々の生活の事を相談できる場所があったらいいな

保護者による保護者支援のためのシステムへの展開

3 エンパワメントを支援する。

【保護者のエンパワメント（乳幼児期の取り組み）】

「自分たちのできることをしたい！」

お母さんの部屋「まろん」「どんぐりころころ」

保護者

保護者

聴き合い，伝え合う関係が作られていく。

活動の成果として

参加者同士の連帯感 リーダーの誕生 主体的な行動
意見の相違を超えた目的に向かう意欲

利用者の声

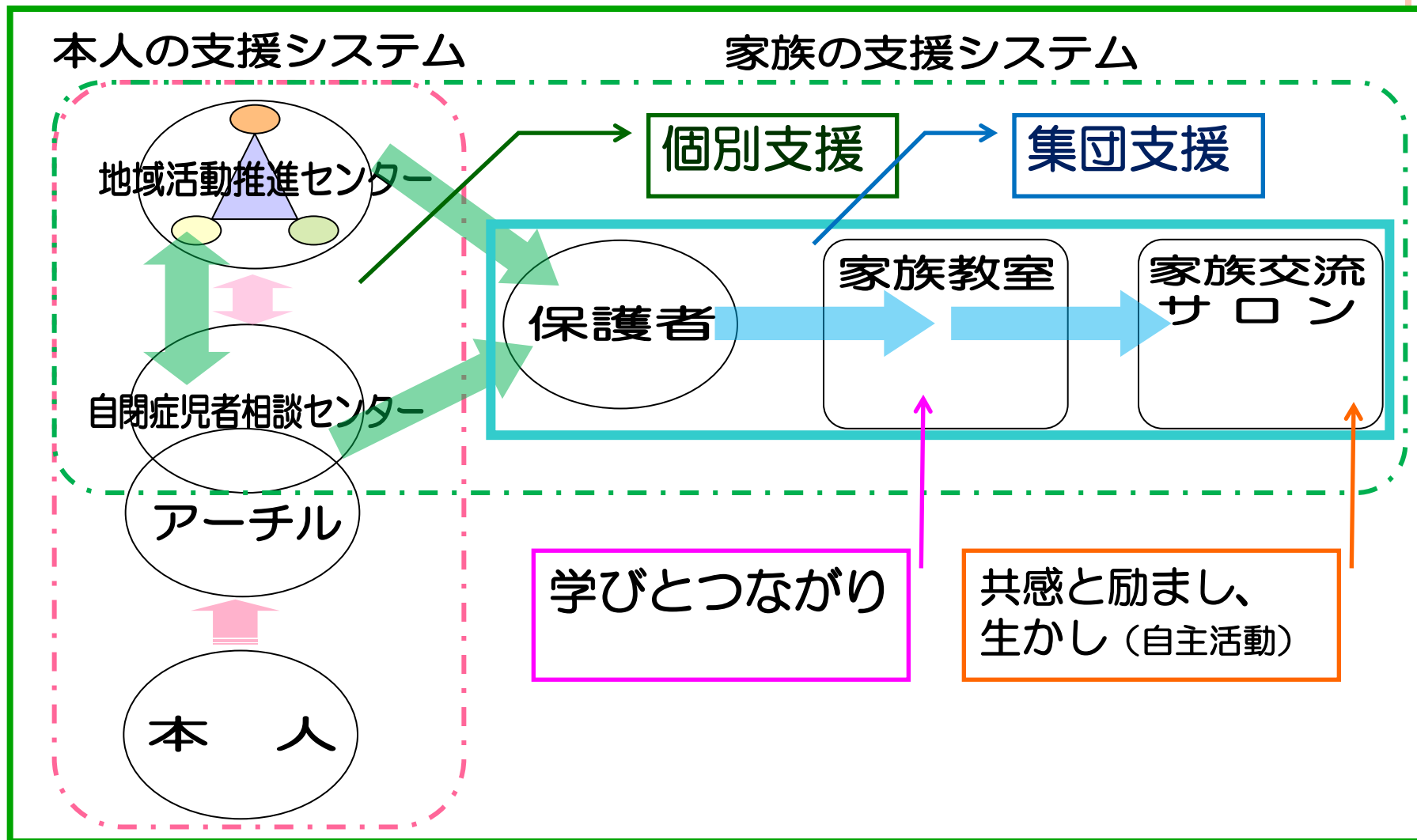
- ・自分の苦しみを理解してくれる保護者の存在が嬉しい。
- ・部屋に入るとホッとする。

担当した保護者の声

- ・自分が必要とされていることを実感した。
- ・来てくれるお母さんに応えられるよう仲間と更に話し合いたい

3 エンパワメントを支援する。

【保護者のエンパワメント（成人期の取り組み）】



3 エンパワメントを支援する。

青年の会

【本人のエンパワメント】

発達障害に向き合って生きる本人たちからのメッセージ

進路選択時 とななことが問題だった？

小・中学時代

力を出し切れない

- ▲ 作文や感想文が苦手、最初の一文が思いつかないまま1時間が経ってしまった。
- ▲ 授業を聴くものという意識や好奇心がなく、寝てばかりいた。
- 自分をよく理解し、アドバイスしてくれた先生がいたおかげで学習意欲がわいた。

いじめ・周囲の無理解

- ▲ 「わがまま」と言われ、自分が言うことはすべてわがままなのだと思う、何も話せなくなった。
- ▲ 「やる気がない」と言われたが自分の状況を説明できなかった。
- ▲ 授業を聞いていなくても点数がとれたが、カンニングと言われていじめられ、言葉を割り引いて書くようになった。

高校・大学時代

得意で力を発揮

- コース制になり、得意科目だけで勝負できたので成績はトップクラス、自分の力が発揮でき自信がついた。

挑戦の機会が少ない

- ▲ 配属されることで逆に挑戦の機会を失った。一度ドロップアウトするとさらに再挑戦の機会が減った。

自分に合った道を考えられない

- ▲ 就職に有利だからという理由だけで選択していたが、自分に合っているのかわからなかった。
- ▲ 学校は点数さえよければいいという勢目気で、一つの価値観にあおられていた。

入職時期

学校まではよかったが

- ▲ うちも何事も積極的に選べない、自分で決めて歩いたつもりがどこにも行っていなかったという思いがある。

学校の学びと仕事がつながらない

- ▲ 大学に進学さえすればなんとかなるとひたすらがんばっていたが、大学の勉強と仕事とは結びついていなかった。
- ▲ 仕事そのものよりも日常の何気ない容儀やマナーが分からない。
- ▲ 「こんな当たり前のことなぜ分からない」と言われても、どうしていいかわからない。

障害に気づいて 障害者支援を選択

- 「こうすれば自分は理解しやすい」と自分の学び方に気づいたのは障害を意識するようになってから。
- ▲ 職場や仕事に適応できず叱責され、解雇。どこも不採用となり仕事が見つからない。
- ▲ 職場に障害を伝えても、仕事に合わないからと解雇された。
- ▲ 遠距離障害や抑うつなど精神科通院に頼ることになった。

当事者のあなたへ 先輩からのアドバイス

- 困った時のみではなく、専門機関（アーチルなど）に相談し、定期的に将来の進路を相談するといいですよ。
- 学校や家庭に、あなたが信頼できる人が人でもいるといいですよ。
- 得意なことや楽しんで長く続けたいと思うものがあるといいですよ。
- 苦手なところばかりに目をつけていませんか？ 自分の得意なところを具体的に相談機関（アーチルや自閉症相談センター）と一緒に整理するといいですよ。
- 自分に合う働き方や職種、職場環境は、就労支援機関と一緒に整理するといいですよ。
- 理解者に自分のことを知ってもらい、確認して認めてもらうといいですよ。

分かって欲しいこと

発達障害の特性や陥りやすい状況

- 自分にとって大切なもの、有用な人や情報が見極められない。
- 置かれている状況を把握し、うまく説明できない
- 何が通しているのか、どんな道がいいのか自分で整理して決められない
- できないことを指摘されてもどこを努力していいかわからない

欲しい支援

傷ついてからではなく 特性に合わせて自己選択できていけるように

WHO? だれに

WHEN? いつから

HOW? どんな

- より自分の力を発揮でき、クリエイティブな方向に引っ張ってくれるペースメーカーがいればよい
- 小学校の早い段階から体験を通して学習したい
- 自分の特性を見極めて進を示して欲しい
- 仕事をスキルアップできるように支援して欲しい
- 何度もトライするチャンスと、そのための支援が欲しい。
- 人間関係をどうコントロールしていけばいいのかわかなくて欲しい



3 エンパワメントを支援する。

【本人のエンパワメント】

地域活動推進センター

自己評価(自信)の向上



③活動を通しての達成感や、他者に認められる成功経験によって自己評価の回復や、自己理解の促進、社会参加の意欲向上を図る

②本人の生活リズムが整い、他の利用者と共に小集団への参加が可能になれば、本人のニーズに基づいた課題を活動に設定

①本人が安心して過ごせる場を提供
支援者との関係づくりを進める

社会参加の促進

本人主体



本人・家族・支援者・
地域との協働

一貫した支援